

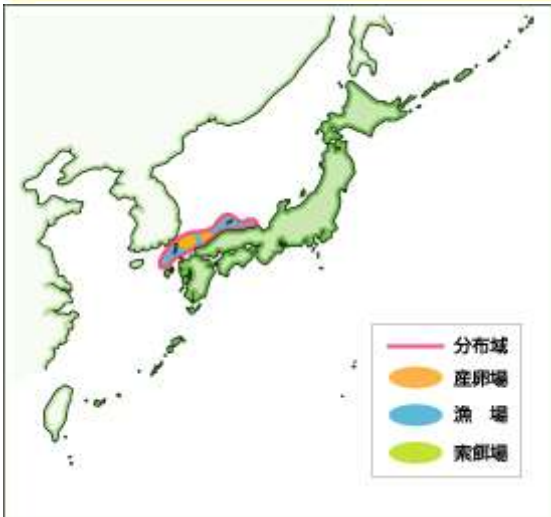
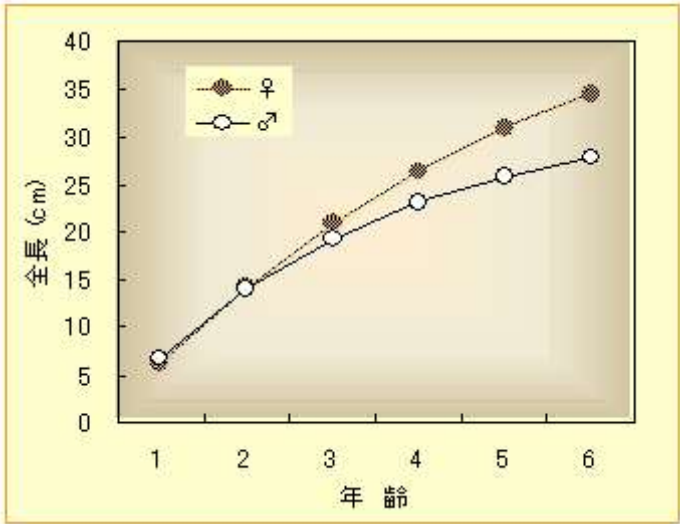
ソウハチ *Hippoglossoides pinetorum*

日本海西系群 担当：西海区水産研究所



生物学的特性

- 寿命： 7歳
- 成熟開始年齢： ♂2歳、♀3歳
- 産卵期・産卵場： 冬～春季（1～3月）、対馬周辺海域、島根県浜田沖
- 索餌期・索餌場： 夏～秋季、日本海西部
- 食性： エビジャコ類やアミ・オキアミ類を主に捕食し、全長15cm以上ではキュウリエソなどの魚類、20cm以上ではホタルイカ等のイカ類が胃内容物中に占める割合が高くなる
- 捕食者： エビジャコ類（幼稚魚期）



漁業の特徴

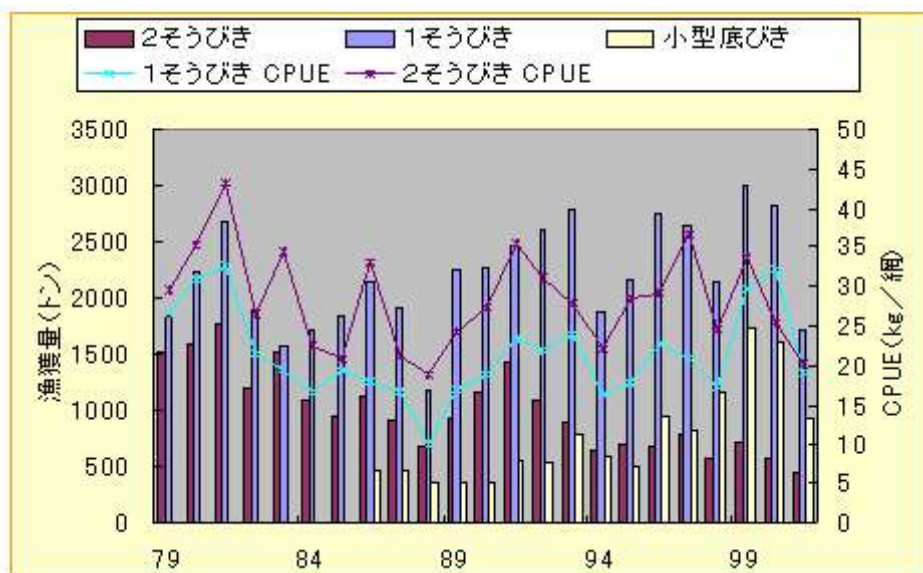
日本海西部海域では、1 そうびきおよび2 そうびき沖合底びき網漁業（沖底）、小型底びき網漁業（小底）などの底びき網漁業や刺網、釣・はえ縄等で漁獲されているが、漁獲の大半は底びき網漁業によるものである。1 そうびきの漁場は島根県以東の海域が中心、2 そうびきは対馬周辺海域～島根県沖が漁場である。

1988年以前は、1 そうびきおよび2 そうびき沖底の漁獲が底びき網漁業による漁獲の80～90%を占め、残りが小底によるものであった。1988年以降は沖底の漁船数が盛期の50～70%に減少したこともあり、近年は小底による漁獲割合が若干高くなっている。我が国EEZの設定、取締り強化により外国漁船の漁獲は減少している。

漁獲の動向

過去20年の沖底の漁獲量は1,900～4,400トンで変動が大きい。小底の漁獲量(一部推定値を含む)については、1986年以降の統計では400～1,700トンで、1998年以降は急増している。

韓国水域にも分布するが、韓国の農林統計ではカレイ類にまとめられており、漁獲の実態等は明らかでない。



資源評価法

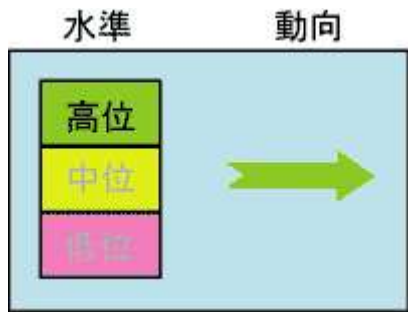
漁獲統計資料に基づき、沖底の漁獲量、CPUE(kg/網)、資源量指数、有効努力量(網数)および小底の漁獲量の経年変化により資源評価を行った。

資源状態

1 そうびき沖底の漁獲量は1983年以降増加傾向にあり、1999年には3,000トンと過去最高値となった。2 そうびき沖底の漁獲量は1974年の2,000トンをピークに増減を伴いつつ、漸減傾向である。1993年には1,000トンを下回り、2001年には過去最低値の450トンに減少した。

1 そうびき沖底では比較的安定した努力量のもとに、2 そうびき沖底では努力量が減少する中でCPUEは横ばい傾向にある。小底の漁獲量は2 そうびき沖底の漁獲量、努力量の減少と入れ替わるように増加している。これらのことからソウハチの資源は高位で横ばい傾向にあると考えられる。しかし、2001年は3 漁業種とも前年に比べ漁獲量が大きく

減少しており、今後の動向に注意を要する。



管理方策

資源は高位で横ばい傾向にあることから現在の漁獲水準を維持する。過去20年の沖底漁獲量は1,900～4,400トンで変動が大きく1999年、2000年は比較的高水準であったが、2001年の沖底の漁獲量、CPUEはともに減少した。また、1998年以降急増していた小底の漁獲量が2001年は大きく減少している。調査船による幼稚魚調査でも加入動向の悪化を予測させる結果が得られており、資源が減少に転じる可能性もある。したがってABCの算定には2001年の漁獲量を用い、沖底のCPUEが横ばい傾向にあることから $\gamma=1$ としてABClimitを求めた。不確実性への配慮からABClimitに0.8を乗じた値をABCtargetとした。

	管理基準	A B C (トン)	漁獲割合	F 値
A B Climit	C2001	3,100	—	—
A B Ctarget	ABClimit $\times 0.8$	2,500	—	—

資源評価のまとめ

- 評価では高水準で横ばい傾向と判断したが、調査による当歳魚の採集密度が2000、2001年は少く、加入動向が悪化している可能性があり、2001年の漁獲量が主要3漁業とも大きく減少したことから今後の動向に要注意

管理方策のまとめ

- 外国漁船による漁獲の把握が必要
- 若齢魚の保護が必要